



外泊・中泊を囲む“シシ垣”遺構の魅力について

岡崎直司

(近代化遺産活用アドバイザー)

【プロローグ】

もう何年になるだろう、私が最初に“シシ垣”という聞き慣れない言葉を知ったのは。

アレは確か平成3年の暮れ、ジ・アースという雑誌の「石垣のある風景」という連載の取材で津島町御槇地区(現宇和島市)を訪れた時からだから、もう20数年が経過していることになる。高知県境に近いとある山中に、50cmから1mくらいの高さで凡そ100mほども続いていただろうか。所々は既に崩れて、ファジーに蛇行する石垣の列を初めて見た時の、新鮮な驚きが今も忘れられない。

次いで平成13年、愛媛県の近代化遺産調査によって西海町外泊と中泊地区(現愛南町)にあるシシ垣の現地確認を行った。それは予めシシ垣の位置図を作成されていた、地元の吉田弘氏(清岳院住職)によるご教示であった。同行して頂き、急斜面に数キロメートルも続くそれらに、本当に驚かされたのだった。

【外泊、中泊地区の歴史背景】

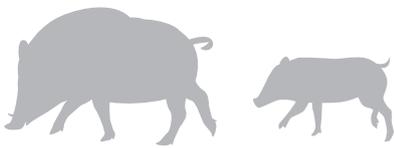
愛媛県の最南端に当たる愛南町(旧西海町)外泊地区は、昭和41年「国際建築」4月号に東京芸大グループの調査が特集掲載され、デザインサーベイの先駆けとなって当時一世を風靡した石垣集落である。その時のテーマは「ハウジングの機能的伝統」ということで、類まれな石垣造成によって立地した集落の建築的な視点によるアプローチであったので、惜しむらくはこの時はまだ“シシ垣”についての記述は見られない。

集落の歴史は、元禄期に内泊から西側に分村して中泊が誕生し、やがて幕末の頃には更に西側に二男三男が新たに外泊を開き分村する。こうした江戸から近代・明治へ移行する段階の人口増は、干鰯(ほしか)による農業生産力のアップや、幕藩体制が解かれ自作農が増えたことなどにあると思われるが、特に外泊集落のち密な石垣造成による計画的土地区割りは見ごたえがある。

その雛段状に開かれた宅地造成の背後には、糧となる農業生産の基盤整備である段畑が何段にも折り重なって続き、西側斜面では山稜の尾根近くまで達する。現在は、耕作放棄地としての段畑が増え、その多くは山林の中に消えている。

【外泊、中泊地区のシシ垣群】

外泊のシシ垣は、集落の背後に連なる段畑をすっぽりと覆うように築かれている。西は道越の鼻の大カーブを回り込んだ道路から、少し左手に山に分け入るとスグ案内札が目に入る。そこから尾根筋に上がると、それと分かる石垣の列が稜線伝いに上方(南)へ伸びている。うまく斜面を利用して外(西)側を高く積んであり、背丈ほどもあろうか。内側は1mを越える程度。石は



砂岩の割石、愛南町全体に広がる四万十帯の主要岩石であり、集落や段畑造成の石垣も同様の石質である。今は方向の目安としてロープが張られ登り易くなっている、緩傾斜や少し急こう配となる尾根上を300 mほども進むとやがて展望台のある小ピークに至る。今回の見学会では、ここから集落に向かう道を下る計画だが、シシ垣はまだ急な尾根を南に登り、途中から東に折れて中腹を横切る形となり、大きく中泊の背後を迂回する形で女呂岬方向へと下る。

一方、その東側尾根の途中からは内泊の背後を囲むように東へ伸びるシシ垣もあり、大きく二つのゾーニングで数キロメートルのシシ垣エリアが区分されている。(図1 地図参照)

【今後のシシ垣群認知の対策】

これらの貴重な農業遺産であり民俗遺構とも言えるシシ垣群ではあるが、残念ながら石垣集落に比してまだ認知度が高いとは言えない状況にある。かつて耕作地が隔々まで現役であった頃には、壮観な光景が広がっていたことが古写真などで分かっている。現在はその段畑の殆どは、山中に没する形で自然に返りつつあり、かつての生き生きとした文化的景観を想像することが難しくなっている。

そこで一つの提案をしておきたいのだが、考古学におけるトレンチ調査のイメージで、現在隠れている段畑とシシ垣が海側から立体的に眺められるよう、景観トレンチとでも言うべき手法でその部分だけ生い茂った木々を刈り払ってみてはどうだろうか。集落における過疎高齢化の現状を考慮すれば、全てを旧に復することは至難であり、そのメンテナンスも尋常では無いと思われるため、歴史的に全盛だった頃の村の在りようを想像し易くする方法論として提案しておきたい。

【県内の他のシシ垣について】

愛媛県においては、シシ垣の悉皆調査がされていない中、ありそうなエリアとして注目されているのが佐田岬半島(伊方町)である。従来この地域では、日本一の細長い半島地形を利用してヤセ尾根に猪を追い込む狩猟が盛んであった。

参考事例として、旧三崎町井野浦にある「畑を囲む石垣」を紹介しておきたい。地元情報のリサーチによれば、畑作物を塩害から守るための防潮石垣とのことであったが、私はシシ垣ではないかと思っている。海の直近に面した他では見られない石垣の在りようである。因みに石質は三波川変成帯における青石(緑色片岩)である。

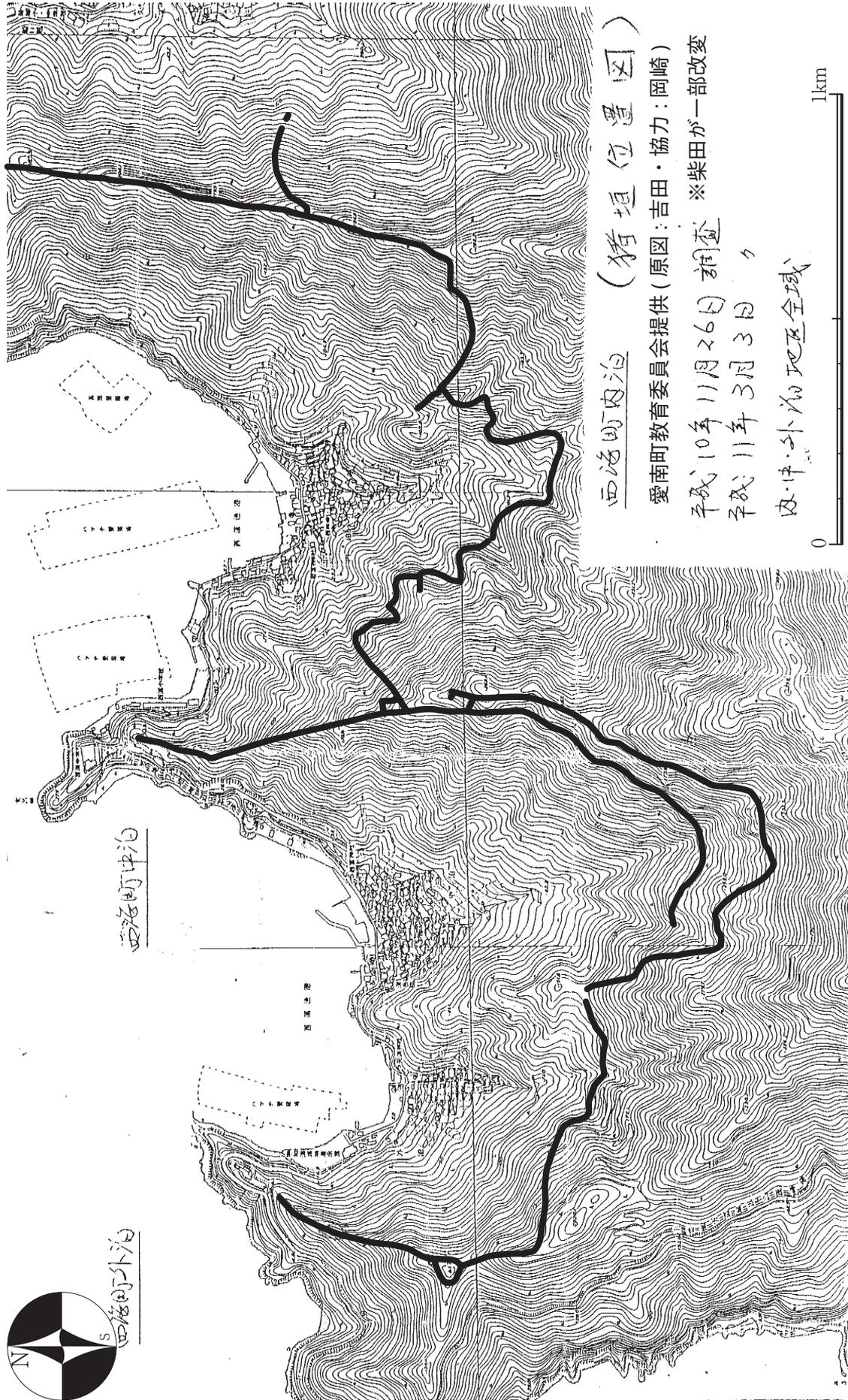
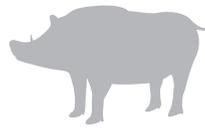


図1 外泊・中泊のシシ垣

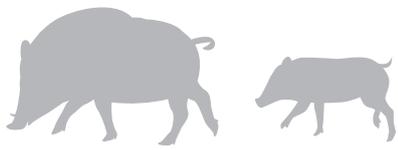


写真1 外泊の段畑(左)とシシ垣



写真2 外泊のシシ垣



写真3 旧三崎町井野浦の畑を囲む石垣